

ワークショップの報告 (WS福井)

日時： 2013 年 12 月 17 日 (火) 14 時から 16 時 30 分

場所：福井大学文京キャンパス

参加者：高校教員 11 名、福井大学院生・学部生 20 名、ほか 3 名の計 34 名

【プログラム】

14:00~14:05 開式の辞 (福井大学 橋本康弘氏)

14:05~15:05 講演：国民所得表の読み方 (日本大学 小巻泰之氏)

15:15~16:15 講演：高校教科書で読み解くアベノミクス (同志社大学 野間敏克)

16:15~16:30 質疑応答

【主な内容】

1.

まず、小巻氏から「国民所得表の読み方」と題した講演があった。内容は前半と後半に分けることができ、前半は、GDP が豊かさの代表的指標であることの説明から始まった。その際名目 GDP と実質 GDP の区別をすることが大事であり、デフレの時には実質 GDP が大きくなることが説明された。また、社会の動きを「モノ」と「カネ」で考えるという視点から、三面等価の原則や国際収支表の作られ方がくわしく解説された。後半は、教科書で説明不足なこともあって、現場教員たちからよく質問される点が紹介された。マネーストック、基準貸付利率、信用創造、コール市場などである。講演後、コール市場についての質疑応答があった。

2. 休憩後、野間が「高校教科書で読み解くアベノミクス」と題する講演を行った。アベノミクスを理解・評価するためには、政経教科書のどの部分が使えるのか、どのような知識や考え方をプラスαすることが必要なかを伝えることが目的であった。たとえばアベノミクスの第一の矢である量的・質的金融緩和政策については、教科書の金融、金融政策の箇所だけでなく、経済の循環の図を念頭においておくと理解しやすい。また、信用創造とも関係する貨幣乗数という概念をプラスすれば、さらに深くアベノミクスの期待される効果と、それが思うように進まないことが理解できよう。第二の矢である積極的財政政策や成長戦略についても、教科書と関連づけながらアベノミクスを解説した。講演後、国債の保有状況と将来についての質疑応答があった。

以上

(文責 野間敏克)